

# 産禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診察日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第103号 2012.10.1

毎月1回発行 産禪洞診療所 松井英介



## ウクライナ 医師たちの声

松井英介

見た方も多いかと思いますが、「チェルノブイリ原発事故汚染地帯からの報告」と題されたNHKのETV特集が、2012年9月16日と23日にわたって放送されました。

ご覧になったご感想はいかがですか。私は目からウロコの想いでした。

びっくりしたのは、それから数日後のことです。いつも行く本屋で、「低線量汚染・・・」という背文字が目目に飛び込んできたのです。タイトルは「低線量汚染地域からの報告—チェルノブイリ26年後の健康被害」。帯には「ETV特集」緊急出版！とあります。ページを追ってみると、TV番組に登場した医師や被災者の写真があるではありませんか。私がびっくりしたのは、この本が番組制作の過程で準備され、放送と同時に出版されたことです。著者は、馬場朝子・山内太郎とあります。

東電原発大惨事の直後からきわめて深刻な被害の実態に直面し、東電・日本政府など原子カムラの対応に不安と怒りをつのらせた庶民の「ほんとのことを知りたい」という声に押されて、彼らはウクライナに飛んだのでした。二人のジャーナリストの意気込みが行間から立ち上ってきて、私は思わず涙しました。

矢吹寿秀「ETV特集」チーフプロデューサーは、この本の巻末に書いています。

『ウクライナ政府は、がんや心臓病などありふれた病気が放射線によって起こったことを証明するのはむづかしいかもしれないが、原発事故関連の病気が膨大な数に上っていると主張し、その実態を「ウクライナ政府報告書」にまとめています。この報告書は国連科学委員会の見解に真っ向から異議申し立てをするものであり、低線量被曝による健康障害についての国際的な合意に反する主張です。』

そして彼は、ふたつの畧をよく知っておく必要があるとして、①「ありふれた病気」の畧と、②「データ不足」の畧を挙げています。①どんな因子であれ、それが心臓病やがんなどありふれた病気の原因だと疫学的に証明することは大変むづかしい。②そもそも原発被災者は「データ不足」の畧から逃れられないのではないか。

心臓病やがんや糖尿病や白内障が、原発事故によるものだと証明できる「証拠がない」というひとに、私はつぎのように言いたいです。

WHO（世界保健機構）は、1959年IAEA（国際原子力機関）との間に結んだ合意書を破棄し、まずIAEAから独立してください。ウクライナ・ベラルーシそして日本で、被災者とくに子どものいのちを守る、WHO本来の医学医療活動、疫学調査活動をやってください！

（WHOとIAEAの合意については、座禪洞だより6月号をご参照ください。）